



TITLE:

## 1.4 京大生の環境意識と京大生協の 取り組み

AUTHOR(S):

松浦, 順三

---

CITATION:

松浦, 順三. 1.4 京大生の環境意識と京大生協の取り組み. 環境保全 2020, 34: 41-46

ISSUE DATE:

2020-03-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/255234>

RIGHT:

## 1.4 京大生の環境意識と京大生協の取り組み

京都大学生生活協同組合 常務理事（環境担当） 松浦 順三

### 1. はじめに

京大生協の環境の取り組みは KES 認証取得や食堂からの排水基準を守る取り組みや京丹後上山地区支援の古代米、京都府漁連や JA 山城などとの地産地消の取り組みから「樹恩割箸」や「No! レジ袋」、はがす弁当の取り組みまで多岐にわたっています。

今回は学生生活実態調査から見た京大生の環境意識とレジ袋削減の取り組みと今後の活動について報告いたします。

### 2. 京大生の環境意識の変化

全国大学生協連合会が行っている「学生生活実態調査<sup>1)</sup>」の中で環境に関しての項目がありました。今

から 19 年前まで集計をとっていました。直近の調査では、「SDGs を知っているか?」という項目に置き換えて質問しています。

1996 年と 2001 年の調査では、約 7 割と 8 割の学生が環境問題に関心があると回答しています。1995 年には COP1 (第 1 回気候変動枠組条約締約国会議：ベルリン) が開催され、日本では容器包装リサイクル法が制定されています。1997 年は COP3 が開催され京都議定書が話題になりました。2001 年に環境省が設置され、国内でも環境に関する意識が高まってきたタイミングでの調査であり、学生の関心も高くなっていたことが伺われます。男女で差が少しあり、文理でも少し差が出ています。

表 1 第 32 回学生生活実態調査 1996 年実施 及び 第 37 回学生生活実態調査 2001 年データより  
1996 年のデータは全体データのみで、男女、文理は 2001 年調査のデータ

環境問題に関心が...	1996 年	2001 年	男性	女性	文系	理系
おいある	31.5	31.6	34.7	28.0	27.0	37.1
まあある	40.6	58.0	53.0	64.0	62.3	53.0
あまりない	19.1	7.2	8.1	6.1	7.4	6.7
ない・無回答	8.5	3.2	4.3	1.9	3.3	3.2

第 55 回 2019 年の実態調査では、「SDGs を知っているか?」「SDGs の中で関心のあるもの」を聞いています。京大生のほうが、全国平均よりも 4 ポイント程度高く認知されています。女性のほうが認知度が高く、文系に比べて理系・医薬系の認知度が低くなっています。この質問以外にも政治関心について聞いているデ

ータと似た傾向にあり、文系学生のほうが社会に目が向いていることが伺えます。



<sup>1)</sup> 学生生活実態調査: 全国大学生生活協同組合連合会が各大学生協を通じて毎年秋に実施しており、調査項目は 1 ヶ月の収入と支出、暮らし向き、食生活など。京大生協では組合員の中からランダム抽出で約 300 名から回答を得ています。

表 2 第 55 回学生生活実態調査 2019 年実施データより

SDGs について...	全国平均	京大生	男性	女性	文系	理系	医薬
知っている	45.7	50.3	48.6	56.3	66.3	43.1	36.8
聞いたことがある	29.9	29.1	29.6	29.6	21.4	32.5	34.2
知らない・無回答	24.4	20.3	22.2	15.5	12.2	23.8	26.3



17 つの目標のうち関心があるもの（複数選択可）で高かったのは、「質の高い教育をみんなに」44.9%、「安全な水とトイレを世界中に」31.1%、「すべての人に健康と福祉を」28.4%となっています。「気候変動に具体的な対策を」「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさも守ろう」などこれまでの環境問題に対しての関心が上位に入らず、全国平均よりも 1.3～2.0 ポイントも低くなっています。また「つくる責任 つかう

責任」が 14.2%しか回答を得られず、わずかですが全国平均よりも低い結果となっています。「つかう責任」については、主体的な活動がなければ解決しない課題であるのに対して、関心が低い結果となっています。

京都大学での学びをこれからの社会に役立てていくためにも、次代を担う京大生が SDGs に対してもっと関心を高めて行く必要があると思われます。

表 3 第 55 回学生生活実態調査 2019 年実施データより 複数回答あり

SDGs の 17 つの目標のうち関心があるもの	全国平均	京大生	男性	女性	文系	理系	医薬
貧困をなくそう	33.8	28.0	26.9	33.8	30.6	27.5	23.7
飢餓をゼロに	25.0	22.6	19.0	33.8	23.5	22.5	21.1
すべての人に健康と福祉を	34.6	28.4	25.0	36.6	27.6	28.1	34.2
質の高い教育をみんなに	40.4	44.9	45.4	43.7	49.0	43.8	36.8
ジェンダー平等を実現しよう	30.9	25.0	19.9	40.8	31.6	21.3	23.7
安全な水とトイレを世界中に	29.3	31.1	28.7	39.4	28.6	33.1	28.9
エネルギーをみんなに、そしてクリーンに	22.8	24.0	26.4	18.3	19.4	30.0	10.5
働きがいも経済成長も	26.6	27.4	29.6	19.7	24.5	29.4	26.3
産業や技術革新の基礎をつくろう	14.8	19.9	24.1	8.5	11.2	26.3	15.8
人や国の不平等をなくそう	25.0	18.9	18.1	22.5	20.4	18.8	15.8
住み続けられるまちづくりを	25.0	24.0	20.8	35.2	24.5	24.4	21.1
つくる責任つかう責任	14.3	14.2	13.4	16.9	13.3	15.0	13.2
気候変動に具体的な対策を	22.9	20.9	19.4	28.2	23.5	21.9	10.5
海の豊かさを守ろう	21.9	20.6	18.1	28.2	18.4	22.5	18.4
陸の豊かさを守ろう	18.4	16.9	13.9	23.9	14.3	19.4	15.8
平和と公平をすべての人に	24.8	17.9	14.8	26.8	18.4	16.9	21.1
パートナーシップで目標を達成しよう	9.0	7.8	7.9	7.0	6.1	8.1	10.5
関心があるものはない	6.6	7.4	8.3	5.6	8.2	6.9	7.9
無回答	3.4	1.7	0.9		2.0	1.3	5.3

### 3. No!レジ袋の取り組みと今後の活動について

#### (1) No!レジ袋の取り組み

京大生協では、2007 年 11 月より、これまで行っていた「レジの袋詰め」を廃止し、支払いの際に必要なとの申し出があった方のみレジ袋をお渡しする方式「No!レジ袋」に変更しました。

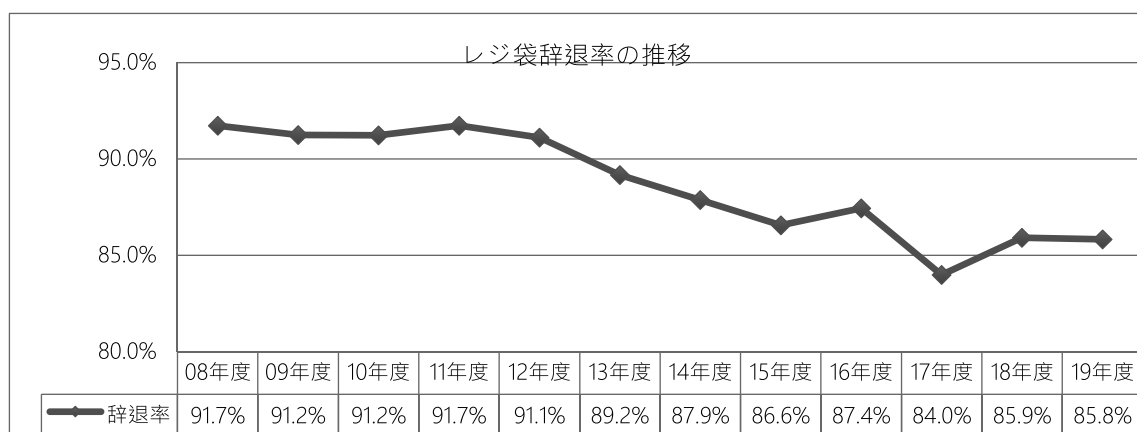
取り組み以前には、約 100 万枚のレジ袋を使用しておりましたが、取り組み実施後の 2008 年の年間使用枚数は約 16 万枚と一気に減少させることが出来まし

た。但し、年を追うごとに辞退率<sup>2</sup>が低下しています。グラフ 1 で示すとおり、活動開始から 5 年間は、90%以上の方がレジ袋を辞退していました。低くなっているとは言え、85%以上の方はレジ袋を辞退されています。



<sup>2</sup> 辞退率：(利用者数-レジ袋使用枚数)/利用者数(対象店舗 時計台ショップ、吉田ショップ、北部購買、南部購買、桂Aショップ、桂Bショップ、桂Cショップの8店舗)

桂地区では、2019 年 9 月よりレジ袋の全廃にチャレンジしており、10 月以降の辞退率は 100%になります。図 1 のレジ袋辞退率には、桂地区の辞退率を参入していません。



グラフ 1 2008 年～2019 年の年間レジ袋辞退率の推移

2019 年 9 月より、桂地区の購買店（桂 A ショップ、桂 B ショップ、桂 C ショップ）でプラスチック製のレジ袋の全廃にチャレンジしています。これは工学研究科長から生協に申し入れが行われ、購買店舗で実施しています。

活動前の桂地区のレジ袋使用枚数は年間約 3 万 6 千枚でしたので、全体数量を大きく引き下げる結果となりました。

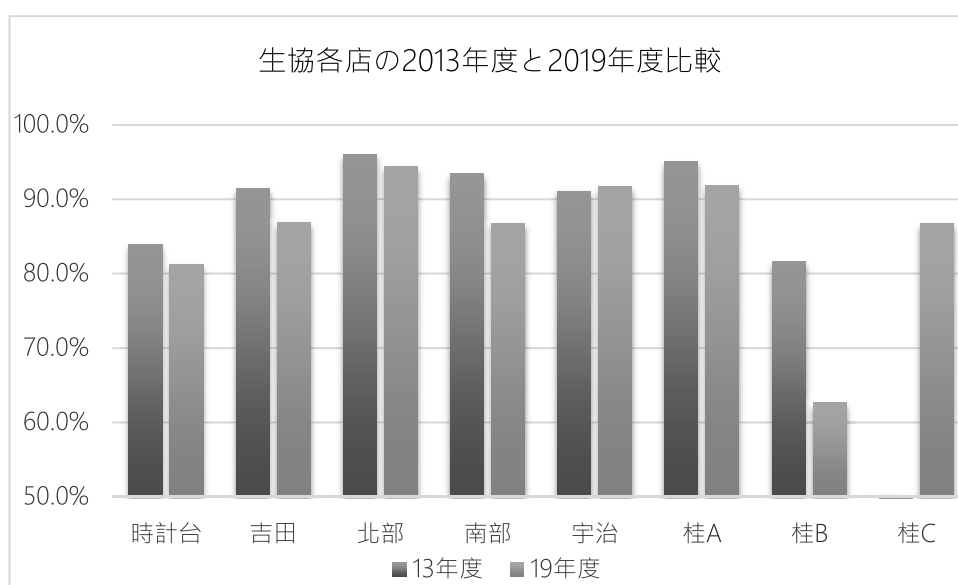
店舗別でのレジ袋辞退率はグラフ 2 に示すとおりで、桂 B ショップや時計台ショップで全体より低くなっています。時計台ショップは、学外からの来訪者も多く、京大グッズ等の購入の際にレジ袋をお渡しするケースが多いために低くなっています。研究室キャンパスの北部購買や宇治購買、桂 A ショップなどは、研究室に持って帰るだけなのでレジ袋の辞退率が他の店舗に比べて高いと推察されます。吉田ショップや時計台ショップの辞退率が他の店舗より低いのは、研究室所属でない学部生の利用が多いことや、おにぎりやパンなどを購入しても店舗近隣に食べるスペースがないことなどが要因として考えられます。桂 B ショップは桂 C ショップが 2018 年 7 月

にオープンして以来、利用者数が大きく減少しており、辞退率の母数が極端に低く、正確な辞退率を示していない可能性があります。

店舗別辞退率の差は利用者階層の差が辞退率

の差として出ていると考えられます。吉田ショップは 1～2 回生の利用が多く、これまでの生活である市中のコンビニなどで受けてきたサービスと同等のサービスを求める傾向があることと、弁当やおにぎりなどを消費したあと、ゴミ箱に捨てるまでのまとめ袋として利用していると思われます。消費する場所が予め決まっているのであれば、消費される場所にゴミ箱などを設置することで辞退率を上げることができるかもしれません。





グラフ 2 2013 年～2019 年の年間レジ袋辞退率の各店別比較

## (2) 生分解性レジ袋の導入と有料化

京大生協では、全国の大学生協と連携して 4 月からサトウキビを原料としたバイオマスポリエステル 100% のレジ袋の導入を決めました。現有のレジ袋がなくなり次第、順次切り替えていきます。但しバイオマスポリエステル原料のレジ袋は従来品よりも単価が高く、利用者に負担していただくことが必要だと考えています。

また、経産省は容器包装リサイクル法の関係省令として、2020 年 7 月 1 日から全国一律にプラスチック製買物袋（レジ袋）の有料化を義務付けられます。前倒して有料化することも推奨されています。京大生協では 5 月に組合員告知を行い、6 月から有料にすることを検討しています。具体的な日程やレジ袋の利用者負担額に関しては、4 月までに検討を完了したいと考えています。

## 4. 生協で使用するプラスチック類に関する取り組み

生協では、様々な種類のプラスチック製品をサービスとして組合員に提供しています。例えば、紙パッ

ク飲料を購入された方には、ストローをお渡ししていますし、雨の日には、店舗入口にプラスチック製の傘袋を設置しています。プラスチック製の容器や包装がされている商品も多く、すぐには解決出来ない課題も多々あります。まずは取り組める課題から少しずつ取り組んで行くことを 2020 年の活動課題としています。

### (1) 傘袋廃止の検討

2019 年 10 月にエコ〜るど京大からの提言を受けて、生協各店で配布している傘袋について検討をしています。傘袋は一度使えば廃棄されるもので、約 20000 人／日の店舗利用者があり、雨の日が 100 日／年、傘袋利用者の割合が約半数とした概算でも 100 万枚／年を消費していることになります。傘についた雫を簡便に取ることが出来れば、傘袋の消費をなくすことができることになります。

2020 年 1 月より中央食堂にて実験的に雫取り用の装置を設置しています。残念ながら本格的な雨が営業日に降っていませんが、おいておくだけで傘の雫をとっていることがわかりました。店舗フロアがどの程度濡れるかはこれから検証していきたいと思っています。



## (2) ストローやプラスプーンの検討

購買店舗で利用者に配布しているストローやプラスプーンなどもリサイクルされずにゴミとして処分されています。2020 年度中に代替品への切り替えを検討しています。

このように様々な課題はあるものの、商品やサービスを提供している店舗として、まずはできることから確実に変えていけるようにと検討を行い、取り組んでいます。キャンパスの構成員である学生教職員を母体とした協同組合であることから、自らのキャンパスでの消費行動を主体的に考えることができる組織として、大学内での役割を果たして行きたいと思っています。